

## 人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

### 1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

愛知県愛西市

学校名

愛西市立永和小学校

学校のURL

<http://www.aisai.ed.jp/eiwa-e/>

### 2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】14学級、【特別支援学級】1学級、【通級指導教室】1教室

児童生徒数

【全児童数】467人（平成23年11月18日現在）  
（内訳1年生79人、2年生87人、3年生70人、4年生80人、5年生79人、6年生72人）

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「つよく(剛健)                      ただしく(正義)                      やさしく(仁愛)」  
（よく考える子ども<知>      心の豊かな子ども<徳>      たくましい子ども<体>）

【人権教育に関する目標】

(1) 基本目標

「人権感覚の育成」      「人権に関する実践力の育成」

(2) 目指す児童像

「自分に自信をもち、自分の考えを進んで表現することのできる児童」

「相手の立場に立って、自分の想いや考えを表現し、受け止めることのできる児童」

「自他を尊重し合う行動を実践できる児童」

(3) 重点目標

自分の考えを進んで表現でき、自分に自信をもち、自己肯定感を高める。

構成的グループエンカウンター（SGE）やソーシャルスキルトレーニング（SST）を活用し、相手の立場に立って「こころ」を表現し受け止められるようにする人間関係能力を高める。

SGEやSSTで培った相手の気持ちを感じ取る力を、ふれあい活動の場で表現し、こころ豊かな生活を築こうとする実践力を育成する。

## 人権教育にかかる取組の全体概要

### (1) 自己肯定感を高める指導

ア 各教科で全員参加型の授業形態「見つけ学習」を取り入れ、児童が積極的に意見交流できるようにし、自己肯定感が高まるようにする。

イ 教室内に話形を掲示し、つけたし発言を奨励する。それに沿って発言する習慣を身に付けさせる。また、他者が話すときは「永和っ子あいうえお」の合い言葉のもと、アイコンタクトをし、うなずいて聞く習慣を身に付けさせる。他者の意見を認め、受け入れる態度を育てる。

ウ 永小タイム・帰りの会・学活等の時間を活用し、S G E や S S T の活動を取り入れ、その場面に応じたことばがけを考えさせたり、ことばに含まれた気持ちを感じさせたりし、人とのよりよい関わり方を継続的に習得させる。

### (2) 「こころ」のふれあい活動の実践

ア ペア学年を設定し、異学年交流の活動を通して、それぞれの立場を自覚させる。

イ 児童会行事や委員会の活動を、学級や学年の枠を超えた縦割り班で行い、その活動を通して自発的・自主的に活動する力や他者を思いやり行動する力を高めさせる。

## 3. 特色ある実践事例の内容

### (1) 自己肯定感を高める指導

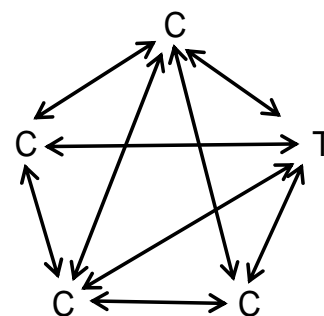
#### ア 全員参加型の授業形態

日ごろの授業を振り返ると、児童同士の相互交流が少なく、教師と児童の1対1の関係で授業が進み、教師が選んだ児童の発言で授業が展開されることが多い。そのため、発言が生かされなかった児童の自己肯定感や学習への達成感が高まりにくい。そこで、多くの発言を引き出し、教師及び児童同士の相互交流が生まれるよう、授業改善に取り組んだ。そして、一つの発言を次の発言に繋げ、意見交流する児童を称賛しながら、教師がコーディネートする「見つけ学習」を進めている。

#### イ 「見つけ学習」による話し合い活動

発言したり、発表したりするときには、「アイコンタクト」(発言している人を見る)、発言・発表を聞くときには、「うなずき」を奨励した。

このことにより、自分の意見を聞いてもらえる、自分の考えがわかってもらえるという安心感や満足感から、児童の挙手や発言・発表が増えた。



【見つけ学習の相互交流】



【見つけ学習の話し合い】

更に、同じ考えや意見に対しては、「つけたし」で自分の考えを述べるよう促した。話し合いの中で、つけたし発言が出ると、意見が認められたという喜びを児童は感じているようである。

## (2) 人間関係能力を高める指導

### ア 構成的グループエンカウンター

#### 「いいとこ四面鏡」

集団の中で、自分を大切に作る気持ちや他とのふれあいが芽生えたり、居心地のよさを感じたりすることをねらいに、「自分のいいところはどこか、みんなにさがしてもらおう」と呼びかけ、活動を行った。実施後の日記には、「こんなふうに使われているなんてすごくうれしかった」という感想が見られ、学級内の雰囲気も大変よくなった。

### イ ソーシャルスキルトレーニング

#### 「ありがとう貯金箱」(低学年)

友達から「ありがとう」を言われたときの気持ちを考えさせ、いろいろな場面で「ありがとう」を言うことができれば、「ありがとうコイン」を入れることを続けた。「ありがとう」を言うことに慣れてくると、言わなければならない場面やタイミングがわかり、自然に「ありがとう」と言えるようになってきた。

## (3) 「こころ」のふれあい活動

S G E・S S Tで身に付けたことを活かす実践の場として、全校児童一斉のふれあい活動とペア学年(1年と4年、2年と5年、3年と6年)によるふれあい活動を年間を通して実践するよう計画的に設定した。

### ア ハッピータイム

低学年は高学年に親しみをもち、高学年は上級生としての自覚を高めるために、ペア学年を作り、遊びを通して触れ合うハッピータイムを行った。ハッピータイムの活動を通して、言葉のふれあいはもちろん、心のふれあいも見られた。

### イ 子ども運動会

全校を6つの集団に分けて、児童会主催で

エンカウターの例	
1 学級や学年で継続的に活用	なんでもバスケット 食べ物大好き ペアで縄遊び ゲー チョキパーじゃんけん 質問ジャンケン ネームゲーム いいとこ四面鏡 25漢字ゲーム 26いいとこめし 27探偵ごっこ
2 実態に応じて継続的に活用	ボールキャッチ ニエゴさんとチケチケさん あがとピンゴ

【学年や学級で取り組んだ SGE の例】

二週間継続 その後実態に合わせて断続的に  
一週間継続 その後実態に合わせて断続的に

	低学年	中学年
4月	基本的なあいさつのスキル 「おはよう名人・さよなら名人」	基本的なあいさつのスキル 「あいさつの達人」
5月	何か失敗したときのスキル 「上手なごめんなさい」	何か失敗したときのスキル 「ごめんねチャンスを 見逃すな!!」
6月	何かしてもらったときのスキル 「どうぞ!ありがとう!!」 「ありがとう貯金箱」	何かしてもらったときのスキル 「すぐに、ありがとう!!」

【学級で取り組んだ SST】



【白チームのカルタ遊び】



【はちまきを巻いてあげる6年生】

子ども運動会を実施した。うまく並べない1年生に対して、児童会役員やペア学年の4年生が優しく声をかけたり、「がんばったね」と励ましたり、はちまきを巻いてあげたりする姿が見られた。

#### ウ 永小フェスティバル

高学年が考えた出し物（「迷路」「魚釣り」「輪投げ」など）を低学年の児童が取り組んだ。低学年の児童でも楽しめるものを考えたり、遊び方を優しく説明したりするなど、高学年の児童の優しさにあふれる姿がいたるところで見られた。

## 4. 実践事例の実績、実施による効果

### 4. 実践事例の実績、実施による効果

#### (1) 自己肯定感を高める指導

「見つけ学習」による話し合い活動によって、自分の意見を聞いてもらえるという安心感が生まれ、児童相互の意見の交流が活発となった。そして、「なるほど、そうか」という声が聞かれたり、自然に拍手が起こったりと、他者の意見を認める雰囲気が出ていった。また、発表していない児童も、しっかり意見を聞くようになり、児童一人一人が学級への所属感を高めていった。

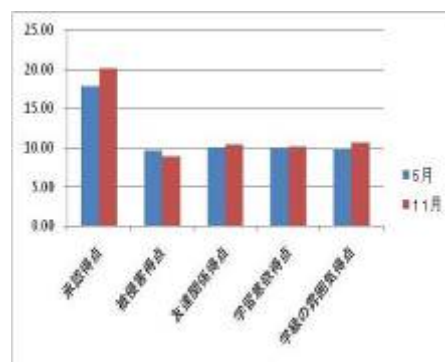
#### (2) 人間関係能力を高める指導

学年・学級の実態に応じたSGEやSSTを通して、具体的な人づきあいのスキルを習得し、児童同士の意思の疎通がスムーズになった。また、自分と他者との考え方に違いがあることを理解し、その違いを受け入れ、周りの児童に対して優しく接することができるようになった。このように、時と場に応じて、相手を大切にしたい言葉がけができるようになった。さらに、自分も大切にされていると感じられるようになり、自分の居場所を実感することができた児童も増えた。

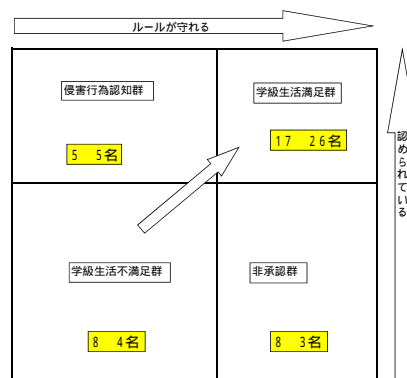
#### (3) 「こころ」のふれあい活動

活動に目的をもって、自発的・自主的に取り組もうとする児童が増えた。SGE・SSTなどで身に付けたことを生かし、仲間と協力して活動に取り組む姿が見られ、高学年の児童は下級生に対して、思いやりの気持ちで、優しい声かけができた。また、低学年の児童は、ちをもつことができた。

「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」などにより、個の心情や人間関係を、具体的に把握し、評価を行った。各項目値の得点平均値を比較すると、承認得点・友達関係得点・学級の雰囲気得点は上昇している。



【Q-U 各得点平均値の比較】



【学級の変化の例】

逆に、被侵害得点は、減少していることから、学級内で認められ、学級の居心地がよいと感じている児童が増えていることがわかった。

また、学級の分布図の変容をみても、低学年・高学年ともに、満足群に属する児童が増えている。これは、傷つけられないという安心感の中で、友達との交流を促進させているためだと考えられる。

## 5. 実践事例についての評価

全員参加型授業「見つけ学習」や異学年交流活動の実践を通して、児童は自分に自信をもち、自己肯定感を高めるとともに他者との望ましい人間関係を築くことができるようになった。さらに、様々な活動に積極的に参加し、互いに高め合う児童が増えてきた。

また、「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」などの実施は、学校の取り組みや学級の状態を客観的に捉え、評価する上で、たいへん有効であった。さらに、アンケートの実施後、その調査結果をもとに、個別懇談の時間を設け、児童理解に努めた。そして、この時間の話し合いをもとに、一人一人の児童への支援にあたった。

更に、日ごろの教師による見取りと調査結果による学級や個の実態把握を通して、全員参加型の授業を基盤とした児童がより深く考える授業のあり方や教師と児童との信頼関係づくりについて考えるよい機会となった。今後も自他を尊重する態度を育むため、学校全体で指導や支援の方法を模索し、計画的・継続的に実践を進めていこうと考えている。

## 【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

### 愛西市立永和小学校

すべての教科学習に「見つけ学習」を取り入れ、互いの発言に適切に応答する姿勢を育もうとしている点に特徴がある。発言を聞く時の「うなずき」や、同じ意見に対して「つけたし」発言をすることを通じて全員参加型の授業をつくりだし、児童の自己肯定感や達成感を高めようとしていることは、「第三次とりまとめ」において強調されている「学習活動づくり」や「コミュニケーション能力の育成」の観点に沿った内容になっている。また、構成的グループエンカウンター（SGE）やソーシャルスキルトレーニング（SST）などの活動をさまざまな時間に取り入れ、人間関係づくりを促している点も注目できる。さらに、全校児童一斉のふれあい活動やペア学年によるふれあい活動が年間を通して位置付けられており、子ども中心の企画やアイデアが随所で生かされていることが、自己肯定感や人間関係づくりに効果をあげていることがわかる事例である。